

「令和4年度 自己点検・自己評価について」

本校では、教育水準の向上と活性化を図り医療教育専門学校としての教育目標及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設け、本校の教育研究活動等の状況について『専修学校における学校評価ガイドライン』に基づき自己点検・評価を適切に実施し、その結果を報告書として取りまとめました。

特に今年は1月31日にガイドラインの一部改正が行われたため、それらを反映すべく本校の自己点検評価報告書の内容の見直しを行い必要な評価項目の追加等を実施しました。

また、前年度の自己点検・自己評価報告の要改善事項、並びに、学校関係者評価で頂きました貴重なご意見を基に要改善事項は、既に本自己点検・自己評価報告に反映し、PDCAサイクルを回し継続的に機能させていく所存です。

今後は、この自己点検・評価の結果、また、本結果報告に基づき学校関係者評価を行い学校関係者評価委員会にて提起されます改善意見を参考にして更なる教育水準の向上に努め、医療教育に携わる専門学校として改善に努めてまいります。

令和 5年 7月

関東リハビリテーション専門学校

副校長・自己点検評価委員長 奈良 研 治

基準1 教育理念・目標・育成人材(ディプロマポリシー)等

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
1-1	学校の教育理念・目標・育成人材(ディプロマポリシー)は定められているか	◎	明確に定められている	教育理念・目標及び育成人材像は学則・パンフレットに明記	特になし	学校HPに教育理念等を新たに開示した
1-2	学校の職業教育の特性は何か明確か	◎	各学科とも医療系国家資格養成校であり、卒業時の国家資格受験資格を取得する。	各課程は養成施設指定規則の基準を満たしている	根拠規則の改正(2020.4適用)に伴い教育内容を見直した。常に規則に適合する状態を維持する。	
1-3	社会のニーズを学校教育の目標及び将来構想等に反映したものとなっているか	◎	高齢化社会のニーズに合わせて医療現場に求められる人材を養成する。	①障がい者スポーツ指導員認定校 ②福祉・介護関連資格取得のサポート等	現在の取組みが陳腐化またニーズに取り残されない様に常に社会ニーズに留意し、必要な刷新を図っていく	R3年度から日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナーの認定校
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材(ディプロマポリシー)は学生・保護者等に周知されているか	◎	各学生には新入時のオリエンテーションで明示している。また、パンフレットに明示し保護者を含めて周知している。	教育理念を1階ロビーに掲示、また学校パンフレットにディプロマポリシー等を明示	特になし	

点検・評価の進捗度 【適切…◎、 ほぼ適切…○、 やや不適切…△、 不適切 …×】

基準2 学校運営

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	◎	明確に定められている	年度事業計画	特になし	
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	◎	予算案を含めて各年度で策定され、5月、6月に明示される	各年度の事業計画及び予算執行計画	特になし	
2-3	運営組織や意思決定機能は規則等に明確化され、有効に組織運営されているか	◎	決裁に関する学園規定も整備され、校内においては機能組織図の職責に基づく規定により業務を進めている。	都築学園規定 関東リハビリテーション専門学校事務組織規程	特になし	
2-4	人事・給与に関する規則等は整備されているか	◎	学園規定により明確に規定されている。	都築学園規定(人事・給与)	特になし	
2-5	教育及び予算執行等について意思決定に関するシステムは整備されているか	◎	学園規定により明確に規定されている。	都築学園規定(事務稟議)	特になし	
2-6	専任教員の配置状況は、ガイドラインに適合するか。また、専任教員は教育担当科目に相応しい知識経験を有しているか	◎	各年度ごとガイドラインに適合させて通年の教育計画を策定し実施している。	教育計画 関東リハビリテーション専門学校HP	新たに追加された自己点検表「様式3」のとおり	R5.1.31の養成施設ガイドライン改正の追加項目に適合させる項目を追加した
2-7	情報システムを導入し、業務の効率化及び情報公開は図られているか	◎	予算管理及び学生管理等一部は校務システムが導入され情報共有が図られている。情報公開についてもHP上に掲示している。	校務システム 関東リハビリテーション専門学校HP	令和元年からHP上に公開中	※従来の2-6項目

点検・評価の進捗度 【適切…◎、ほぼ適切…○、やや不適切…△、不適切…×】

基準3 教育活動

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
3-1	教育理念に沿った課程編成、育成人材像を踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にできているか	◎	PT/OT養成所の教育課程に位置付けられ教育が実施されている	PT/OT養成施設の指定基準を満たし認定を受けている	特になし	
3-2	各学科のカリキュラムは、ガイドラインに基づき、体系的に編成されているか	◎	国家試験受験資格を得られるための課程としてPT/OT養成施設の指定基準を満たしている	同上	特になし	R5.1.31の養成施設ガイドライン改正の追加項目に適合させる文言を追加した
3-3	キャリア教育・職業実践教育の視点に立った教育方法の工夫・開発が行われているか	◎	厚生労働省の基準を満たすカリキュラムに現場力を生かす独自性を加味している	日本障がい者スポーツ指導員養成施設認定校	特になし	
3-4	授業評価の実施・評価体制はあるか	○	学生への授業アンケートを全教科行い、評価とともに要望の吸い上げなどに活用している	授業アンケート	アンケートのみで、教育技法等に関する評価として具現化したものの導入を継続課題とする	
3-5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	◎	A/B/C/Dの成績評価及び単位認定の基準は明確である	関東リハビリテーション専門学校学則	特になし	
3-6	資格取得等に関する指導体制はあるか、また、カリキュラム内での体系的な位置付けとなっているか	◎	国家資格取得に向けて知識が段階的に蓄積される様に1年時から国試対策模試を取り入れ、3年時には総復習を行うなどのサポートを行っている	模試実績(1年、2年、3年) 国家試験対策講義	特になし	

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
3-7	臨床実習は、ガイドラインの要件を満たす実習施設及び指導者が確保され、適正な指導の下に実習が行われているか。また、連携は確保されているか	◎	ガイドラインに適合する施設を選定し、実習指導者の要件を満たす条件を確認し、依頼文書をもって、実習施設を選定し、適正に実習を実施している。また、スーパーバイザー会議や実習地訪問等により施設との連携は密にしている。	各年度の臨床実習計画 スーパーバイザー会議議事録	特になし	※新評価項目 R5.1.31の養成施設ガイドライン改正の追加項目に適合させる項目を追加した
3-8	教員が先端的な知識・技能等を修得するための研修、また、指導力育成・資質向上のための取組みが行われているか	○	知識・技量維持のための病院研修等を各教員は週一回行っている。また、各学科とも各種学会、教員研修会などにも可能な範囲で参加している。	出勤簿 学会研修参加については、出張記録簿	学会等の研修については、業務の都合、また、予算上で参加できない場合も多々あった。今後は、研修の開催目的の軽重に応じて取捨選択を行う	※従来の3-7項目 R4年度もオンライン講習に参加
3-9	優れた教員を確保するためのマネジメントや職員の能力開発のための研修等が行われているか	○	資格が求められるポストは空きが生じると容易に確保するのは難しく、視野を長期にした対応が求められる。特に現職員の異動希望と業界関係者の情勢変化の把握を大事にしている。	職員充足率		※従来の3-8項目 作業療法学科専任教員の欠員1名については令和5年4月1日をもって新たに採用し、欠員は解消した。

点検・評価の進捗度 【適切…◎、ほぼ適切…○、やや不適切…△、不適切…×】

基準4 学修成果

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
4-1	就職率の向上が図られているか	◎	就職希望者の就職内定率は、開校以来100%である。	本校学校案内	特になし	
4-2	資格取得(国家試験合格)率の向上が図られているか	○	理学療法学科は効果的に対面指導を行い所望の成果を得た。 一方、作業療法学科は約半数が不合格だった。 近年採用した個人学習ツールの評価を含めて国試対策の改善を検討する。	厚生労働省告示 国家試験 学校別合格状況 (PT R4.2 28/29 96.6% ➡ R5.2 22/25 88.8%) (OT R4.2 14/18 77.8% ➡ R5.2 12/21 57.1%)	今後もコロナの影響は続くと考えられ、状況や時宜に応じ指導法の創意工夫と安定した成果に繋がる対応が求められる。	(部外) 模試の有効活用 令和元年度から部外ツール(リハドリル;過去問題のスマホアプリ)の活用を開始し、過去に出ていた効果がR4年度は見られなかった。
4-3	退学率の低減が図られているか	○	令和4年度の退学者は、コロナの影響を大きく受けた前年度に比し幾分減少した(R3;15名 ➡ R4;10名)、特に昼間部1年生が(R3;8名 ➡ R4;0名)と、減少させる事ができた。	前々年度及び前年度実績	原則対面授業、状況によりオンライン授業を併用することで学生対応がある程度効果的にできた。 状況に応じ、工夫を凝らし学校として学生のフォローに真摯に取り組んでいく。	
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	○	業界団体研修や同窓会により卒業後のキャリア形成に向けたニーズの把握に努めている。	研修後の懇親会、同窓会や懇親会、また、本校の学校祭へのOB参加者から情報収集	現在、常設した形のものはないため、今後同窓会を作るか引き続き検討する。	

点検・評価の進捗度 【適切…◎、ほぼ適切…○、やや不適切…△、不適切 …×】

基準5 学生支援

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	◎	就職課・学生課、担任及び各学科による支援体制は整備され有効に機能している。 病院施設による説明会も開催	関東リハビリテーション専門学校組織機能図	特になし	
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	○	過去の学校関係者委員会の提言を受けR4年度から心理担当教諭による学生相談窓口開設し運用を開始、担任以外の複数窓口体制としている。	学級担任制度 学生相談窓口を掲示	R3年度の退学者発生状況から当該年度の学校関係者評価委員会から提言を受け改善を図り運用中、R4年度の退学者は前年に比し減少している。	学生相談窓口を設置 担任制と合せ複数の相談体制を運用中
5-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	○	日本学生支援機構／東京都育英会の奨学金、本校の提携ローン 国の修学支援制度の認定校に指定を受けた	学生募集要項 認定指定校名簿	毎年、数名は経済的な理由の退学者が生じている。 他の学生支援の道も追及する	修学支援制度の認定校に継続指定 今後、対象者の手続きを推進する。
5-4	学生の健康管理を担当する組織はあるか	◎	学生課を中心とした支援体制を整備し、かつ、年一度の健康診断を実施している。	行事計画／健診記録等	特になし	
5-5	学生の生活環境・課外活動等を支援する体制は整備されているか	◎	学級担任を中心に対応している。	校外活動届等	特になし	
5-6	保護者とは適切に連絡・連携が図られているか	◎	内容により必要の都度、各学科／教務課／会計課が対応している。	家庭通信記録	特になし	
5-7	卒業生への支援態勢はあるか	○	本校HP上に卒業生への発信欄はあるが、必要書類の手続きに限定されている	関東リハビリテーション専門学校HP卒業生の方へ	HPの卒業生ページの機能拡大を検討中	

点検・評価の進捗度 【適切…◎、ほぼ適切…○、やや不適切…△、不適切…×】

基準6 教育環境

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
6-1	施設・教材は、教育上の必要性に対応できる様に整備されているか	◎	教育に支障の無いように更新・修理等行っている。	軽易な故障についてはその都度、早期に修理し、更新が必要な教材については年度計画で実施している。	特になし	
6-2	実習施設等の教育体制は整備され、十分な連携は図られているか	◎	学生数の実習先を確保している。	バイザー会議や日々の連絡・訪問等で実習先との連携は十分にとっている。	特になし	
6-3	防災体制は整備されているか	◎	整備し、入学時の新入生オリエンテーションにて周知している。	定期的な防災点検、災害時の備蓄も学生分備蓄している。	特になし	

基準7 学生の募集と受入

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	◎	各入試の出願時期を厳守して行っている。	AO出願9月、社会人出願9月、高校推薦出願10月、一般出願11月	特になし	
7-2	学生募集において適正な評価基準を設け選考を行っているか	◎	各選考項目を点数化し合否基準を設けて選考している。	評価平均5点満点中、3点以上を合格としている。	特になし	
7-3	学生募集成果	○	年度当初の募集目標との対比 昼間部; 33/40 夜間部; 21/30 ともに年度目標には満たなかった。	R5年度新入生募集記録	夜間部が8割の目標に大きく届かなかった事の要因を考察し、募集広報に更なる工夫を加え、年度目標を達成できるよう努力する。	

点検・評価の進捗度 【適切…◎、 ほぼ適切…○、 やや不適切…△、 不適切 …×】

基準8 財務

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
8-1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか	○	安定している。	学園グループとして、毎年経営改善を図っている。	本校のみの収益でも安定した収支となり、各種の事業を具現化し易い環境となる様に努力する。	学校独自；夜間のOT学科の充足が低く学生募集努力を継続する。
8-2	予算執行及び収支計画は妥当なものとなっているか	◎	年度末に翌年度の予算計画を行い、本部の決裁を受けている。	本部決裁後に実施している。	特になし	
8-3	財務について監査が適正に行われ公開されているか	◎	外部の公認会計士による会計監査を実施している。	2年に1度、会計監査を行っている。	特になし	

基準9 法令等の遵守

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
9-1	関係法令及び養成施設設置基準が遵守され適性に運営されているか	◎	適切に運営している。	関係法令及び養成施設設置基準を厳守していると認識	特になし	
9-2	個人情報保護対策が図られているか	◎	個人情報についてはほぼ適切に保護されている。	個人情報の漏えいに対する危機管理を意思統一している。個人情報保護については学園規定	特になし	
9-3	自己評価・学校評価・第三者評価が行われ、その結果を公開しているか	◎	自己点検・学校関係者ともに実施し、その成果をHPにて公開している。	本校HPの情報公開ページ	特になし	新たなガイドラインに規定の第三者評価の文言を追加

点検・評価の進捗度 【適切…◎、 ほぼ適切…○、 やや不適切…△、 不適切 …×】

基準10 社会貢献

点検小項目		点検・評価の進捗度	現状認識・評価等	評価等の理由(根拠)	課題と対策	備考
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	○	地元中学生の職業体験の受入れや学校祭を活用した地域住民への体験講座等を行っているがコロナ禍で昨年度は中止となった。	コロナ禍なので、過去数年間の地元中学生や地域住民に対する体験講座の実績。	コロナの感染状況を注視しつつ、監督官庁の指導を仰ぎ、可能な範囲での実施を追及する。	昨年度も学校祭がコロナ禍で中止となり調査機会を失し、本件は継続扱いとする。
10-2	学生のボランティア活動を奨励し、活動支援を行っているか	◎	東京民医連等が行う夏期ゼミや立川市内でのボランティア活動などへの参加を促している。	毎年数名の学生が参加している。	特になし	
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練(職業訓練等を含む)の受託等を実施しているか	△	地域住民へ学校祭の機会を活用した障がい者体験講座等を行っていたがコロナ禍で昨年度も中止となった。	コロナ禍なので、過去数年間の地域住民に対する体験講座の実績。	10-1に同じ	

点検・評価の進捗度 【適切…◎、ほぼ適切…○、やや不適切…△、不適切 …×】